

新春 2012 年。早いもので松の内も過ぎましたが、いかがお過ごしでしょうか？
本年が皆様にとって、笑顔の絶えない素晴らしい一年になりますように、
スタッフ一同、心よりお祈り申し上げます。現在会員登録数 764 人さま。
ご愛読ありがとうございます。次号は 2 月 21 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
 - 《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk
 - 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 17
 - 《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-
 - 《4》 行って来ました!
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

■

【1】お知らせ

● 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品が出版されました
当財団主催、「第 27 回ニッサン童話と絵本のグランプリ」（平成 22 年度実施）
の受賞 2 作品が、BL 出版より出版されました。

『あやとユキ』いながき ふさこ／作 童話部門優秀賞一席作品
青井 芳美／絵（第 3 回絵本部門大賞受賞者）

『うみのそこのてんし』松宮 敬治／作 絵本部門大賞作品

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募って
います。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に
充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『怪物はささやく』 パトリック・ネス/著 シヴォーン・ダウド/原案
池田真紀子/訳 ジム・ケイ/絵 あすなる書房 2011 年 11 月

対象年齢：中学生以上

あらすじ：母親が癌で入院したため、13歳のコーナーはあまり気の合わない

祖母と住むことになる。彼は毎夜悪夢に脅かされ、その夢のために罪の意識を感じていたが、ある夜、窓から見えるイチイの木の怪物がやって来る。怪物はコナーに3つの物語を聞かせる代わりに、最後にはコナーが物語を聞かせなければならないと言う。学校では級友から距離を置かれ、母親とは病気について率直に語れない少年の苦しみが描かれる。

Y：まず、装丁・装画に惹かれました。モノクロの絵でコナーの不安感、イチイの木の存在感が描かれています。

O：巨木が怪物として歩いてやってくる怖さを強化する役割ですね。イチイの木は、時には薬になり、時には破壊者となる一面的でない描き方がされていて、コナーとの対決場面が読ませました。

Y：コナーはイチイの木の第二の物語を聞いた後、祖母の家の中を破壊し、第三の物語を聞いた後、コナーをいじめ続けていたハリーを殴り倒します。物語を聞くことでハリーの気持ちがむき出しになってくるという物語の使われ方も興味深いと思いました。

O：この作品では「物語」の人間に及ぼす力が強調されていて、三つの物語は、私には、理性的で頭で整理されているように感じました。二人の作家が関わっていることと関係しているのかもしれませんが。逃げ腰の父親、頭脳明晰でビジネスライクに物事処理する祖母、いじめっこのハリー、幼馴染のリリー、校長など、コナーの周りの登場人物も整然と配置されています。

Y：母親の死を予感したコナーが「終わって欲しい」と思ったことに罪悪感を抱き、そこから逃れられないで苦しむ様子がイチイの木との対話の中で突き詰められていきます。

O：まわりのひとたちが、事実を知って触れないようにすることで、空気の壁ができ、コナーがより孤立していく過程は、このような状況下で表面的に示される「やさしさ」がいかに残酷かを暴いていて、迫力がありません。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 17

「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンル c. 日常を描いた絵本」

子どもの日常を描いた絵本は、あたりまえのこととして過ごしている日常について客観的に見つめる機会を提供します。「自分も同じような体験をしたな」「同じように感じたな」と思うことで、自らの経験を視覚イメージや言葉で再確認するのです。

このジャンルで重要なことは、作品が「子どもの視点で描かれているか」ということです。絵本は基本的に大人の作家が書くため、ついつい、大人の視点から子どもを描いてしまいがちです。絵について言えば、子どもの視点を理解した構図になっているということが重要です。背が低いために、視線が低くなるだけでなく、子どもは大人にとっては重要ではないと思われるよ

うなものにも気づいてじっと見つめたり、さわったりする傾向にあります。

言葉について言えば、子どもの思考に添って描かれているかということが重要です。大人であれば、経験した出来事をすぐに抽象的な概念にあてはめて理解することが可能ですが、子どもにとっては、世の中は謎だらけで、いろいろなことを一つ一つ試しながら人や社会を理解していきます。

一方で、大人も子どもも感情を持った人間であるという点では共通しています。一見、大人にはいつも元気で明るいと思われる子どもでも、不安や悲しみ、怒りなどを抱えて毎日を過ごしています。日常を描いた絵本の中ではそのことを含めて子どもをとらえる必要があると考えます。このような作品例としては『わたしとあそんで』（マリ－ホール・エッツ/文・絵 よだじゅんいち/訳 福音館書店 1968年8月）が挙げられます。

また、子どもたちが自分の生活と比べるジャンルであるからこそ、家族観や男女観のステレオタイプに気がつけたいものです。さまざまな生き方を許容する作品であるかどうかを評価の観点として持っておきたいと思います。

*次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンルd.ナンセンス絵本」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 17 回目。今回は〈番外編〉その2です。

●ほんナビきっず（富士通東北システムズ、財団法人大阪国際児童文学館）

<http://www.honnavi.jp/honnavi/navi/topmenu2.jsp>

「本の海大冒険」（前回紹介）に続き、子ども向き〈本探しサイト〉として開発されたのが「ほんナビきっず」です。

「本の海」のゲーム検索は子どもたちに大変人気ですが、システム上、本を探すバリエーションが増やしにくく、拡張しづらい点が課題でした。また、子どもたちの読書ニーズを捉えるという点で、さらにインタラクティブ（双方向性）なものにできないか、という思いがありました。

子どもにとってより望ましい検索システムはどうあるべきか、こうした課題に取り組むために、当財団では図書館システムを多く手がける富士通東北システムズと、この分野の研究では国内をリードする筑波大学との共同研究を実施。その成果として生まれたのがこのサイトです。

「ほんナビ」では、ともすれば固定的になりがちな検索方式について、選択できるキャラクターやアイテムなどの絵文字の数や、掛け合わせの数を多くし、複雑な条件検索を実現。精度の高い結果が抽出可能となりました。加えて、登載本には体系化された物語キーワードを付与。本も大幅に増やすことで、検索結果がより充実するようになりました。

インタラクティブという点では、本を読んだ感想を「うれしい・かなしい・こわい・びっくり」というカテゴリで投票できるシステムを採用。それらをシステム内に数値化して蓄積、感情で本探しができるという、国内初のシステムを構築しました（特許出願中）。

そして何よりも、サイトをナビゲートしてくれるキャベツくんとブタヤマさんが楽しい。絵本作家・長 新太さんのキャラ満載で、ファンならずとも一見の価値あり！ぜひ一度、お試しください。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その18〉の予定です。

《4》 行って来ました！

宝塚市立手塚治虫記念館に行ってきました。阪急宝塚南口駅から北へ宝塚大橋を渡ると、「ガラスの地球」が載った建物が見えてきます。エントランスまで手塚マンガのキャラクターの足型をたどれば、自然に建物に誘い込まれる感じです。玄関ホールは券売機までが「リボンの騎士」の王宮風で、館内は床から天井まで全てが手塚治虫ワールドです。

1階には、たくさん並んだカプセル型の展示ケースに手塚治虫の原稿や本、写真などの常設展示があります。地階にあるアニメーション制作が体験できる「アニメ工房」、2階にある手塚作品の検索やゲームで遊ぶことができる「情報・アニメ検索機」、自由に本が読めるライブラリーなど、大人も子どもも時間を忘れて楽しめそうです。

企画展示は「萬画（マンガ）～石ノ森章太郎の世界～」です。高校2年の石ノ森が手塚のアシスタントとなった経緯や、手塚に嫉妬されたエピソードなど、マンガ原稿やパネルで紹介されています。500巻770作品に及ぶ石ノ森の作品数はギネス記録に認定されているようで、展示されていた全集だけでもすごい数でした。「がんばれロボコン」や「さるとびエッチちゃん」など、私が知っている作品が多く紹介されていて懐かしさをおぼえました。

また、宮城県石巻市にある石ノ森萬画館は東日本大震災で津波に遭い、今は休館中ですが、再開に向けて頑張っている状況報告のパネルがありました。帰りは、国際児童文学館が2008年に手塚治虫文化賞をいただいたことを思い出しながら、「花のみち」を宝塚駅に向かいました。（K）

【3】全国のイベント紹介

●小展示「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品出版記念 絵本原画展
会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
期 間：開催中 ～3月初旬
内 容：「第27回ニッサン童話と絵本のグランプリ」出版2作品の原画12点
主 催：当財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『怪物はささやく』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.17プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は2月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

お正月、4年ぶりに行った北海道のスキー場。以前はオーストラリアの人が多かったのですが、中国人客が大幅に増えているように感じました。雪が舞う露天の湯に浸かりながら、つらつら考えるのは、英語ダメ、中国語ダメの私は、やっぱり国際化に取り残されている・・・大阪“国際”児童文学館勤務なのに。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
